

# ☆お薬ニュース No.4☆

2014.12.17 磐井病院薬剤科



## インフルエンザ特集！！！！

### I. インフルエンザって??

「インフルエンザ」という名前をみなさん一度は聞いたことがあるかと思いますが、今回は改めてインフルエンザについて特集してみたいと思います。

インフルエンザは「インフルエンザウイルス」に感染してしまうことによって発症する病気です。

主な症状は、

- ・ 38℃以上の発熱
- ・ 関節痛
- ・ 頭痛
- ・ 筋肉痛

などの全身症状が突然現れるのが特徴です。鼻水、のどの痛み、咳などの風様の症状も現れる事があるため判断が難しい場合もありますので注意が必要です。インフルエンザの治療は注射薬や吸入薬、飲み薬などがあります。

### II. インフルエンザの予防方法は??

インフルエンザを予防するにはどうすればよいのでしょうか??

#### ① ワクチン接種

インフルエンザに感染してしまった際に重症化防止に効果があると考えられていること、感染しても発症する確率を低下させることなどが期待できます。(当院では予約制となっています)

#### ②咳エチケット

インフルエンザは患者さんが咳やくしゃみをした際に飛散する唾液などの小さな液滴(飛沫)によって拡散します。そのため「マスクを着用する」「咳・くしゃみをする際にはティッシュなどでおさえる」などの咳エチケットを心がけましょう。また、咳・くしゃみを手で押さえた際にはすぐに手を洗うなどしましょう。

#### ③外出後の手指衛生

日常生活でも大切なことですが、外出をしたら手洗い・うがいをして体内にウイルスが入り込まないように注意しましょう。またインフルエンザウイルスはアルコール消毒が有効とされています。市販の手指消毒薬を使用することも予防につながります。





#### ④適度な加湿

空気が乾燥すると、粘膜等の体の防御機構の働きが落ちてしまうため、加湿しましょう。目安は室内の湿度は50~60%です。

## インフルエンザの治療薬～磐井病院編～



インフルエンザの治療薬には注射薬・吸入薬・内服薬といった種類のお薬が販売されています。今回は当院で処方されているお薬について紹介します！！

種類	薬品名	使用方法	外観
注射薬	ラピアクタ	点滴のお薬です。	
吸入薬	イナビル	医師に指示された量を1日のみ吸入する。	
	リレンザ	医師に指示された量を1日2回5日間吸入する。	
内服薬	タミフルDS	主に小児に使用する薬剤。粉のお薬です。決められた量を1日2回5日間服用する。	
	タミフルカプセル	決められた量を1日2回5日間服用する。	

タミフル DS は服薬する際に混ぜると苦味が増してしまう食品や飲み物があるので注意してください。詳しくはお薬をもらう際に添付されてくる専用リーフレットをご覧ください。



専用リーフレット



小児や未成年者等で患者さんにインフルエンザ発症後、薬の服用の有無に関わらず異常行動（うわごとを言ったり興奮したりする・幻覚が見える・意識がなくなる・痙攣・普段と違うとっぴな行動をとる等）が認められたという報告があります。少なくとも2日間は睡眠中を含め患者さんを一人にしないようにしてください。

参照：厚生労働省 HP (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>)、

中外製薬株式会社 HP (<http://www.chugai-pharm.co.jp/index.html>) 第一三共株式会社 HP (<http://www.influ-news.info/top.html>)

グラクソスミスクライン (<https://www.healthgsk.jp/>)